

生物多様性の主流化推進に向けたシンポジウム

生物多様性の主流化推進 に向けた大阪市の取組について

大阪市環境局

令和5年3月5日



「大阪市生物多様性戦略」とは？

■ 計画の位置づけ

○「生物多様性基本法」第13条に基づく生物多様性地域戦略

■ 計画期間

○2021から2030年度までの10年間

■ 計画の目標

・2050年までのめざすまちの姿

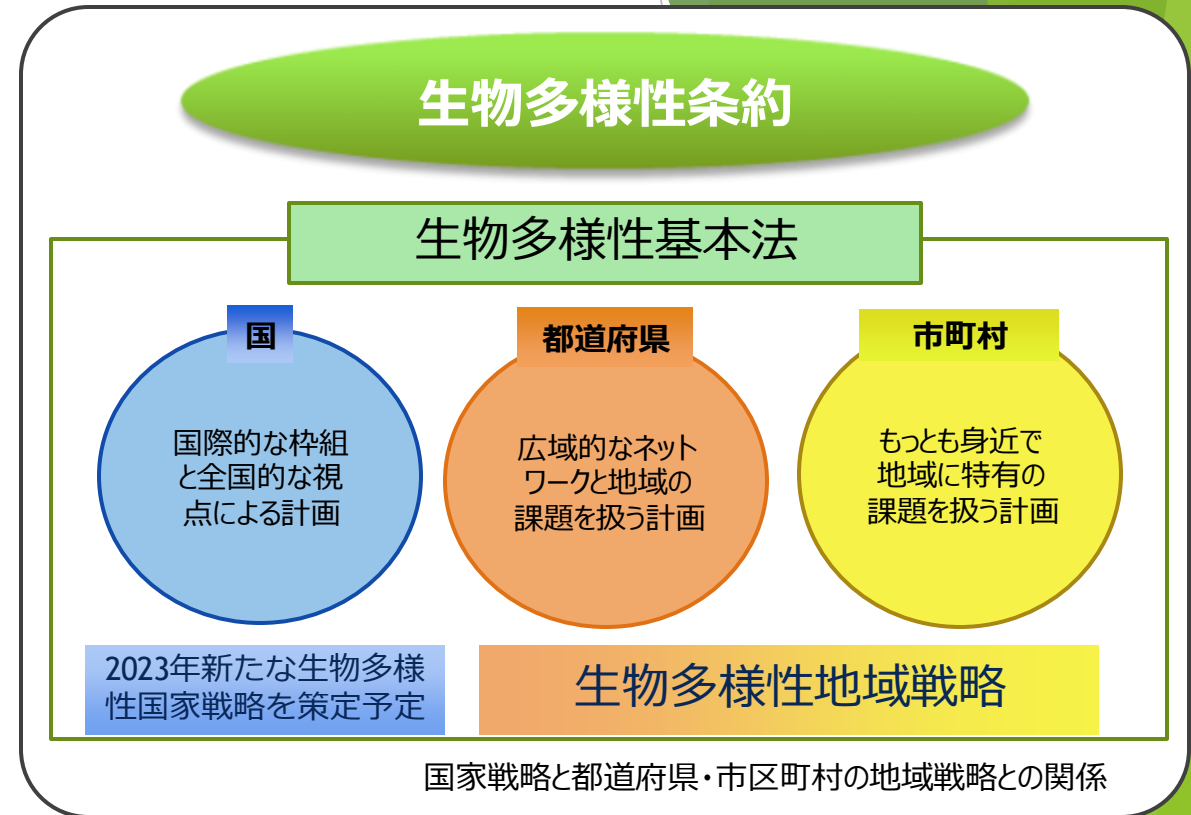
「生物多様性の恵みを感じるまち」

・2030年度までの目標

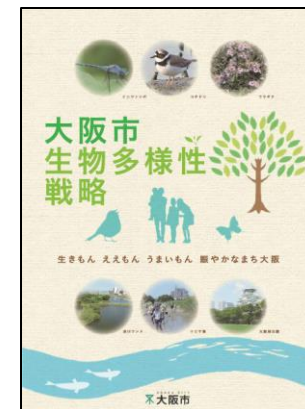
- (1) 生物多様性の保全と持続可能な利用(※1)を促進する。
- (2) 生物多様性の保全のため、多様な主体との連携・協働を推進する。
- (3) 自然や生き物を身近に感じる市民の割合(※2)を50%以上にするとともに、生物多様性保全に貢献する取組みを行う市民等を増やしていく。

※1「生物多様性の保全と持続可能な利用」とは、豊かな生物多様性を保全し、その恵みを将来にわたり享受できる自然共生社会の取組み

※2「自然や生き物を身近に感じる市民の割合」とは、都市にいながらも日々の暮らしの中で、自然や生き物との関わりを実感できる市民の割合



国家戦略と都道府県・市区町村の地域戦略との関係



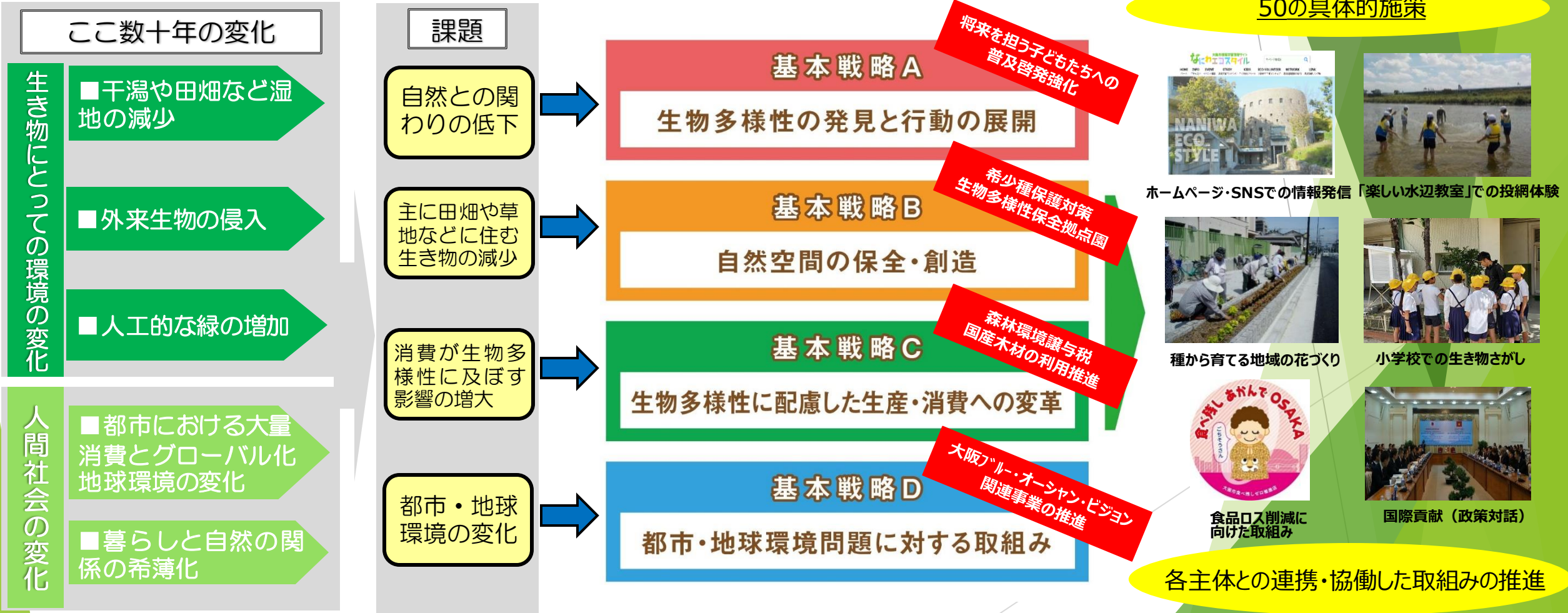
大阪市生物多様性戦略
(2018-2020)



大阪市生物多様性戦略
(2021-2030)

2030年度までの目標達成に向けた4つの「基本戦略」

2019年に発表されたIPBES※評価報告書では、世界的な生物多様性の危機にあると示されました。大阪市では、ここ数十年の変化として、大きく「生物にとっての環境の変化」と「人間社会の変化」があり、そこから課題を設定することにより、4つの基本戦略を設けております。これらのもと、50の「具体的施策」を実施します。



※IPBES とは、生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、科学と政策のつながりを強化する政府間のプラットフォームのこと。

多様な主体との連携・協働

◆2050年のめざすまちの姿「生物多様性の恵みを感じるまち」

自然や生き物との
関わりを
実感できるまち



淀川のウナギ漁
(提供:大阪市漁業協同組合)



十三干潟



大阪市域生き物調査

生物多様性を
保全するまち



生物多様性の
恵みを未来に
つなげていくまち



自然体験観察園



大阪城公園



御堂筋のイチヨウ並木



屋上緑化(なんばパークス)
(提供:南海電気鉄道株式会社)

「生物多様性の恵みを感じるまち」の実現に向けて

市民・環境NGO/NPO・事業者・研究機関・教育機関・行政などが生物多様性を意識した上で、様々な取り組みを推進することが重要です。

大阪市内では、これまでも、各主体が生物多様性に関連する独自の取り組みを進めているとともに、それぞれが知恵を出しあいながら、各主体間で緩やかなつながりを形成してきました。

今後も、「生物多様性の恵みを感じるまち」の実現に向け、様々な主体のつながりを拡大・強化していきます



大阪市では・・・

市ホームページをはじめ、大阪市環境学習情報サイト「なにわエコスタイル」やSNSでの情報発信を行っています。



なにわエコスタイル



「小学校での生き物さがし」の様子



■多様な主体と連携、協働した取組の推進

大阪市内には、自然や生き物をテーマとして活動する事業者、環境NGO/NPOなどが数多くあります。これら多様な主体により、身近な場所での自然観察会や環境に関する講座など、市民参加による様々な取組みが進められています。大阪市では多様な主体と連携、協働した取組みを行っています。

大阪市×教育機関

児童といっしょに校内に生息・生育する生き物を調査する体験型の出前授業で生き物がいる環境を守ろうという意識を育む



大阪市×NTT西日本×大阪市エコボランティア

鶴見緑地の自然体験観察園における「生き物いっぱい湿地づくり」(湿地化プロジェクト)



大阪市×UNEP-IETC×天王寺動物園

設立30周年を迎えるUNEP-IETC及び天王寺動物園が共同でプラスチックごみ削減と生物多様性保全に関する、環境啓発スタンプラリーイベントを開催



大阪市×バイオーム×市民

スマートフォンアプリ「Biome」を活用した、大阪市全域を対象とする市民参加型生きもの調査を実施



大阪市×大阪ECO動物海洋専門学校

「ECO緑日」において小学校生き物さがしのサポーターとして協力いただいている専門学校の学生さんと生物多様性ブースを出展



多様な主体と連携、協働した取組（大阪市×教育機関）

概要

事業年度	平成30年度から
プロジェクト タイトル	市立小学校での生きものさがし
概要	校内に生息・生育する生き物を調査する体験型の出前授業子どもたちの生物多様性に関する意識を高め、環境や生き物の多様性を守る行動へとつなげていく

平成30～令和4年度

- 実施済校数：136校
- 参加児童数：約8,100名

平成30～令和3年度

- これまでに発見された生き物の種数：994種

授業の様子



大阪市立長吉南小学校
(平野区)

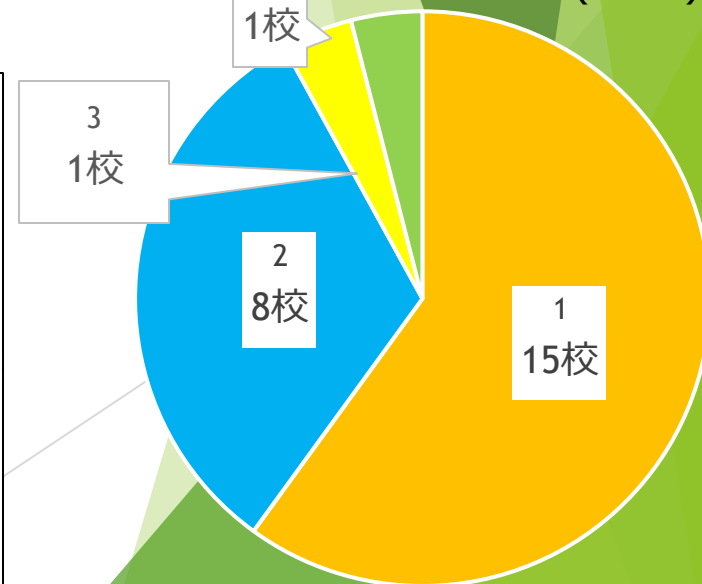
見つけた生き物

小学校生き物さがし No.2128
調査日:2021/7/9・2021/11/26
全部で 211しゅるい

<p>きゅう食堂うら</p> ツユクサ クサイチゴ ワラジムシ アキアカネ	<p>学習園</p> アメリカカサプロウ チャコウラナメクシ タマザキフタバムグラ ハンゲツオスナキグモ
<p>正門横</p> コミカンソウ セグロアシナガバチ マメゲンバイナズナ アカハネオンプバッタ	<p>しよく員室うら</p> トキワハゼ アカアシマルガタゴモクムシ ヒメジョオン マルシラホシカメムシ

長吉南小学校

令和3年度小学校アンケート結果
(25校)



多様な主体と連携、協働した取組（大阪市× BIOME ×市民）

概要

事業年度	令和4年度
プロジェクトタイトル	生きものすごいぜ！夏休み特別クエスト in おおさか
概要	スマートフォンアプリ「Biome」を活用した、大阪市全域を対象とする市民参加型生きもの調査を実施

アプリ内クエスト画面



- クエスト開催期間
：7月15日～8月31日（夏休み）
- クエスト参加人数：817名
- 投稿件数：7,424件
- 発見された生き物の種数：2,275種

連携イベント



普段生き物とふれあいは
少なくとも、当イベントでの
スマートフォンアプリの活用により、都市部でも子どもから大人まで生物多様性を身近に感じてもらうことができた。

多様な主体と連携、協働した取組 (大阪市×大阪ECO動物海洋専門学校)

概要

事業年度	令和4年度
プロジェクトタイトル	大阪市環境局との官学連携プロジェクト
概要	「市民がECOと縁を結ぶ一日」をメインテーマとしたイベント『ECO縁日』において、来場者の方に生物多様性を楽しく伝えることをコンセプトにしたブースを企画提案・実施。

・ 当日の様子 (花博記念公園鶴見緑地)



・ 学生グループ6組からのプレゼンの様子



大阪ECOってこんな学校!



大阪ECO動物海洋専門学校は、動物園・水族館の飼育員やベトリマー、動物看護師、ドッグトレーナーといった、動物業界のプロをめざす専門学校です。

今回ブースを出展するのは、飼育員やペットショップ店員、観光牧場スタッフなどへの就職をめざす、動物園公務員専攻 / 動物園・動物飼育専攻というコースの学生です。

普段は校内にあるペットショップ実習室で、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、魚類、昆虫を飼育管理しながら、飼育・健康管理、レイアウトの方法、ペットショップで販売されている商品の取り扱い方、繁殖、接客ノウハウなど、飼育スタッフとして必要なスキルを学んでいます。

生き物がしサポーターとして活躍しています



大阪市立の小学校で実施されている「生き物がし」に、大阪ECOの学生もサポーターとして参加しています。そこで得た経験をもとに、みなさんに「生物多様性」を体感していただけるブースを考案しました。

全部で6つの企画考案し、その中から今回の「恐竜今昔物語」を実施することになりました。他にはこんなアイデアができました。

- ・ゴミを使った水槽レイアウト
- ・ゴミから手作りする工作コーナー
- ・葉っぱが氷をはじく力の実験
- ・いきものカードあわせ
- ・ペットボトルリサイクル射的

今回のイベントをきっかけに、身の回りの生き物の多様性や、その周辺の環境に興味を持ってもらえたら嬉しいです!!



学校法人コミュニケーションアート
大阪ECO動物海洋専門学校



多様な主体と連携、協働した取組 (大阪市× NTT西日本 × 大阪市エコボランティア)

▶ 概要

事業年度	令和元年度から令和4年度
プロジェクト タイトル	生き物いっぱいの湿地づくりプロジェクト
概要	自然体験観察園にある水田跡地を利用して、 様々な生き物にとって貴重なすみかである湿 地を復元

• 作業の様子



• 湿地復元前の様子



• 湿地完成セレモニー



多様な主体と連携、協働した取組(大阪市×教育機関)

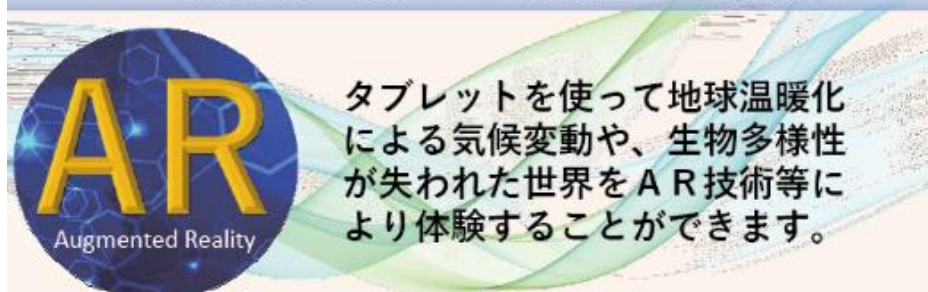
概要

事業年度	令和5年度から
プロジェクト タイトル	AR技術等を活用した体験型環境学習
概要	地球温暖化対策を進めていく中で、あらゆる主体が一体となって気候変動対策に取り組む「ゼロカーボン おおさか」の実現に向け、一人ひとりの行動変容が図られるよう、大人たちだけでなく、次世代を担う子どもたちが具体的な行動をおこすことを目的とした体験型環境学習を実施する。

・ 体験型環境学習コンテンツ (イメージ)



AR技術等を活用した体験型環境学習



多様な主体と連携、協働した取組（大阪市×UNEP-IETC×天王寺動物園）

▶ UNEP-IETC 設立30周年記念 「ごみを減らして、地球と動物を守ろう！」 スタンプラリーイベント

令和4年11月19日（土）・20日（日）に、環境局と、今年で設立30周年を迎える国連環境計画国際環境技術センター（UNEP-IETC）及び天王寺動物園が共同で、プラスチックごみ削減と生物多様性保全に関する、環境啓発スタンプラリーイベントを開催

UNEP-IETC職員による講義



みんなができる行動宣言



当日の様子（天王寺動物園）

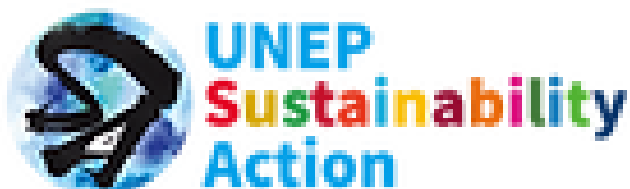
■国連環境計画（UNEP-IETC）との連携

- 国連環境計画（UNEP-IETC）は、大阪にある唯一の国連機関
- 1992年に大阪市に誘致され、開発途上国等における廃棄物管理を中心とした環境上適正な技術の移転促進のため、大阪市と連携し、国際会議等を開催
- **2022年は、UNEP50周年、UNEP-IETC30周年**



○UNEP-IETC 設立30周年記念イベント

- UNEP-IETCやGEC等と連携し、「ごみゼロへの挑戦 - 次の30年に向けたサステナビリティアクション」を開催
- イベントでは、日本・世界におけるプラスチック削減に関し、国際機関や政府関係者、Z世代、民間企業によるディスカッションを行い、持続可能な社会の実現について対話



SDGs（持続可能な目標）達成に向けた各種取組の先頭に立っている国連機関と、普段の暮らしを支え人々の生活の真ん中にある民間企業から構成された持続可能な社会を目指すプラットフォーム



※環境省、農林水産省、株式会社ファーストリテイリング、株式会社セブン&アイ・ホールディングス、EARTH MALL with Rakuten、(公財)地球環境センターがメンバー又はオブザーバーとして参加

大阪市生物多様性保全に向けたネットワーク会議

「大阪市生物多様性戦略」に基づき、生物多様性の保全に向けたネットワーク会議を立ち上げ、多様な主体が参画できる仕組みの構築に向けた取組みを進めており、これまで延べ **574名** の方にご参加いただき、テーマに沿って情報交換を行い、各主体との連携を進めてきました。2050年を見すえたまちづくり（生物多様性の恵みを感じるまち大阪）の具体化に向け、今後も多様なパートナーシップの連携を進め、生物多様性戦略を推進していきます。

（経過①：コロナ後）

2022年のテーマ：生物多様性の主流化をめざして～2030年SDGs達成に向けて私たちができること～

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| ①子どもをめぐる生物多様性（8月4日開催） | （参加者 65名 / 募集100名） |
| ②若者世代の主流化に向けて（11月10日開催） | （参加者 63名 / 募集100名） |
| ③新しい食料生産と生物多様性（1月19日開催） | （参加者 77名 / 募集100名） |

2021年のテーマ：生物多様性をより広く市民、若者へ広げて行こう

- | | |
|----------------------|-----------|
| ①生きものにふれあえる公園をめざして | （参加者 32名） |
| ②サステナブルなまちなか「農」への期待 | （参加者 24名） |
| ③大阪の川・水辺は今 | （参加者 76名） |
| ④未来を担う世代が考える大阪の生物多様性 | （参加者 41名） |

2020年のテーマ：30年後を見すえたまちづくり（生物多様性の恵みを感じるまち大阪）の具体化と各主体の新たな活動の模索

- | | |
|-------------------------------------------|-----------|
| ①学校教育における生物多様性学習の発展 | （参加者 27名） |
| ②大阪市の施設を利用した、より多くの市民への生物多様性普及啓発活動 | （参加者 28名） |
| ③まちなかで恵みを感じられる場づくりの発展 | （参加者 42名） |
| ④生物多様性戦略と大阪のまちの将来像～生物多様性の恵みを感じるまち大阪2050へ～ | （参加者 23名） |

（経過②：コロナ前）

- 2018・2019年のテーマ：「環境プラスチック問題と生物多様性」ほか1回（参加者①15名②19名）
 「各主体が実施する生物多様性保全に関する取組み」ほか3回（参加者①14名②不明③17名④11名）

■今後の展開イメージ

大阪市生物多様性保全ネットワーク会議

情報交換の場

- ・ 多様な主体の参加
- ・ 相互の交流(多様性への関わり)により、取組の促進



さらなる発展

地域連携プラットフォームとしての機能

- ・ 共通課題の分析・問題解決
⇒社会・経済と生物多様性の関連
- ・ 生物多様性の損失からの回復をめざす
⇒生物多様性に影響を及ぼす直接要因
間接要因へのはたらきかけ



大阪市生物多様性戦略の進展

《参考》

取組みを進める5ステップ



大阪市生物多様性戦略の推進の概念図

